

最終試験結果の要旨	
学位申請者 氏名	Rampathige Indika Ruwan Prasanna
審査委員	主査 佐賀 大学 教授 白武 義治
	副査 佐賀 大学 教授 小林 恒夫
	副査 鹿児島 大学 教授 岩元 泉
	副査 鹿児島 大学 教授 田代 正一
	副査 琉球 大学 教授 内藤 重之
審査協力者	
実施年月日	平成 26年 1月 11日
試験方法 (該当のものを○で囲むこと。) <input checked="" type="radio"/> 口答・筆答	
<p>主査及び副査は、平成26年1月11日の公開審査会において学位申請者に対して、学位申請論文の内容について説明を求め、関連事項について試問を行った。具体的には別紙のような質疑応答がなされ、いずれも満足できる回答を得ることができた。</p> <p>以上の結果から、審査委員会は申請者が博士(農学)の学位を受けるに必要な十分の学力ならびに識見を有すると認めた。</p>	

学位申請者 氏名	<b>Rampathige Indika Ruwan Prasanna</b>
<p>[質問1] スライド31で示すように、あなたはサトウキビ経営の費用分析を行いました。その費用の中に、農作業別の家族労働費と雇用労働費を労賃に含めていますか。</p> <p>[回答1] はい。労賃に家族労働費と雇用労働費を含めて作業別に計算しました。この点は、本文70ページにある表3-4の脚注で説明しております。</p> <p>[質問2] 純収益を計算するとき、粗収入から家族労働費と雇用労働費を差引きましたか。</p> <p>[回答2] 純収益を計算するとき、労賃の中に作業別の家族労働費と雇用労働費の両方を含めて計算しました。</p> <p>[質問3] 費用計算では、通常、労賃は家族労働費と雇用労働費は別々に扱い計算します。</p> <p>[回答3] はい。その点については承知しています。ここでは、費用の中に、物財費と家族労働費と雇用労働費を含めて計算しました。そして純収益を計算しています。</p> <p>[質問4] スライド46をご覧ください。「2重」とはどことどの部分ですか。それは農家内部の資源循環と、農家外の資源循環を意味していますか。</p> <p>[回答4] はい。この資源循環システム(RCS)において、資源は農家経営レベルと地域経済レベルで2重に循環していることを意味しています。</p> <p>[質問5] あなたはココナツ部門が伝統的であると言いましたが、研究事例として取上げる他の部門が伝統的であるとは言わなかった。その他の部門の循環システムは経済の自由化後に導入されたのでしょうか。</p> <p>[回答5] 全ての資源循環システムRCSは、伝統的なものです。これらシステムは1977年の経済の自由化方針の導入前から機能しています。</p> <p>[質問6] この種の伝統的なRCSは非常に持続可能なシステムというのが、あなたの捉え方です。そのシステムを促進するためにどのような条件を提案しますか。</p> <p>[回答6] はい。本研究によって、RCSの非常に重要な特徴を実証的に抽出しました。これらの特徴は、地域農業や関連産業を保護するのにたいへん重要な条件です。しかし、政策立案者は、これまで、地域農業と関連産業に対する経済の自由化の影響を軽減するための実証的な解決策を検討してこなかった。だから、政策立案者は彼らの政策を、国際的競争の影響の為に、時々、変換しなければならなかった。以上の理由から、本研究は、あえて経済の自由化の原則に違反することなく、地域農業と関連産業を保護する為の提言を試みました。また、本研究は現代の農業問題の解決策を発見する為の新しい研究基盤と実証的な視点を提示しました。</p> <p>[質問7] 表1について説明してください。スリランカの砂糖、酪農、ココナツ各部門の自給率はどの程度ですか。</p> <p>[回答7] 2010年の砂糖、酪農、ココナツ各部門の自給率は5%、16%、100%でした。</p> <p>[質問8] 図1において、乳製品について言及しています。それは輸入粉ミルクのことですか。</p> <p>[回答8] いいえ。それは輸入された粉ミルクではありません。国内で生産さ</p>	

れた未殺菌牛乳です。

〔質問9〕スリランカの大きな農産物貿易相手国がどこであるか教えてください。

また、農産物、工業製品、サービスを含む多様な商品の貿易相手国はどこですか。

〔回答9〕農産物貿易において、インドがスリランカの最大の貿易相手国です。また、農産物、工業製品、サービスを含む多様な商品の貿易相手国はUSAとEUです。

〔質問10〕研究論文の中でワシントン・コンセンサスを議論していますか。本研究は研究結果としてワシントン・コンセンサスに対し異論を唱えるものではないですか。

〔回答10〕はい。博士論文ではワシントン・コンセンサスについて検討しました。本研究の結果は発展途上国における農業や関連産業を保護するために、寧ろ異なった視点で、ワシントン・コンセンサスに対し異論を唱える結果になっております。

〔質問11〕本研究はとても興味深いものです。なぜ、このような研究を行いましたか。

〔回答11〕関連する文献調査を行いました。既存文献は開発途上国の地域農業と関連産業を国際競争から保護するために、財政や金融の政策を検討することに終始したことが明らかになりました。そこで、政策立案者は、地域農業と関連産業に対する経済の自由化の影響を軽減するために、これまで実証的研究に基づく解決方法は採らなかった。それで、既存研究のこの隙間を、理論的で実証的な研究で埋めるようチャレンジしました。既存研究に新知見を加えるために本研究を行いました。

〔質問12〕砂糖部門主導型のRCSにおいて、砂糖以外の製品が生産されていますか。

〔回答12〕はい。砂糖以外では、RCS内の加工場でウイスキーなどアルコール類が製造されています。また、製造過程で発生した廃棄物を燃料にした火力発電によって電力を生産し、さらに、その廃棄物によって有機堆肥も生産しています。